

## 伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第9回 まちなかエリア高度化 WG		
開催日	2025年5月1日(木)		
開催時間	開会	18:00	閉会 19:40
開催場所	市役所5階 501会議室 オンライン併用		
出席者			
協議会・WGメンバー	会場：黒河内貴氏、志知貴文氏 OL：政金裕太氏、土田智氏、瀧内貫氏		
事務局・職員	会場：企画部：織井企画政策課長、有賀企画政策課長補佐、 村田新産業技術推進係長		
関係者	—		
欠席者	鈴木孝之氏、細谷啓太氏		
議事	1、「対話・つながり・実現の場」の内容、日程について		

議事項目	概要	次のステップ
1、「対話・つながり・実現の場」の内容、日程について		
伊那弥生ヶ丘高校将来活用WGの「対話・つながり・実現の場」に参加して	<p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先日行われた弥生ヶ丘高校WGの「対話・つながり・実現の場」に参加した。</li> <li>・弥生ヶ丘高校ツアー(まち歩き)では、弥生ヶ丘高校同窓会の皆さんに地域の歴史、景色の見え方、通学中のエピソード等を説明いただいた。</li> <li>・車で通過してしまうと気付かないが、建物があった場所が更地になっていたり、よく知っているお店が閉店していたり、知らないお店がオープンしていたりと発見も多く、現場に行くことは大事だとあらためて感じた。</li> <li>・まちなかエリアWGの「対話・つながり・実現の場」でも実際にまち歩きをした方がよいのではないかと強く感じた。</li> <li>・まちなかエリアWGの「対話・つながり・実現の場」でも外へ出て歩いてみようという方向でよければ、今日は、まち歩きのルート、グループ分け、テーマといった意見交換ができればと思う。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私も弥生ヶ丘高校WGの「対話・つながり・実現の場」に参加した。</li> </ul>	

<p>まちなかエリア 高度化 WG の 「対話・つながり・実現の場」 の内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 普段弥生ヶ丘高校に何か関係があるわけではないが、歩くことを通して、自分が経験した内容として話ができると思った。</li><li>・ まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」でもまち歩きを絡めると、普段まちなかエリアに関わりが薄い人も自分事として対話に参加してもらえらると思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 弥生ヶ丘高校 WG の「対話・つながり・実現の場」に参加した方の facebook を見ると、参加してよかったという印象が伝わってきた。まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」にまち歩きを取り入れることは良いと思う。</li><li>・ エリアごとにテーマを設定してまち歩きをしてもよいかもしれない。まち歩きから戻ってきて、思ったことを書いたり写真を貼ったりというまとめの時間が有意義になりそうである。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 弥生ヶ丘高校 WG の「対話・つながり・実現の場」に参加した。</li><li>・ まち歩きと対話がセットであると、対話での言葉に熱がこもり、少し実体験に沿った言葉が出てきた感じがした。まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」でもまち歩きをすることについては賛成である。</li></ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 弥生ヶ丘高校 WG の「対話・つながり・実現の場」は 40~50 人でまとまってまち歩きをしたようだが、まちなかエリアは広く、西町、荒井、坂下、山寺、まちごとにいろいろな特徴があると思うので、グループ分けした方がよいかもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ どのようにテーマを設定するか。各自のテーマで自由に歩いてくださいというものもあるし、テーマを決めて説明する人がいて団体で歩くというものもあると思う。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ある程度、交通、福祉、商業などテーマを設定して、その観点で歩いてみて段差がヤバイといった気づきを得ながらフィールドワークしてくるものもあるかもしれない。</li></ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 歩くだけでなく、バスに乗ってもらってもよい。</li></ul>	
--	---	--

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・テーマを完全に与えるよりは、例えば3つ、4つ、テーマのヒントみたいなものがあって、グループごとに歩いていく中で、自分たちのグループはこのテーマで発表しますという視点を定めて発表につなげてもらうというやり方もあるのではないかな。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・伊那北駅周辺 WG と弥生ヶ丘高校 WG は、対象が決まっているけれど、まちなかエリア WG は、非常に範囲が広いために具体性を持たないと前に進んでいるように見えない。この WG のよいところでもあるが、「対話・つながり・実現の場」でどのような成果を求めるかは難しい問題である。</li></ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回はまち歩きでのインプットに特化して気づきを出し合い、期間を開けずに次を開催してそれについて対話していくようにしてはどうか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」は、まだ拡散フェーズになると思うが、まち歩きで写真を撮った人が写真のデータを送り、その日のうちに自分がその写真の場所で何を面白いと思ったかコメントを添えてもらえるだけで、対話のテーマ「Identity・自分との関わり」の意図に近いものが残せるのではないかな。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」が終わったときに、参加者の思ったことをどのようにして我々が収集できるかは重要である。付箋では厳しい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・位置情報、写真、メッセージを送ってもらい google マップにマッピングして市のホームページに公開すれば、オープンデータとして世間の皆さんにも見ていただくことができる。</li><li>・伊那市の公式 LINE にも位置情報と写真とメッセージを送る機能があるので、その日だけ公式 LINE の隠しチャットボット機能を使わせてもらい、例えば参加者に公式 LINE で「まちなか WG」というメッセージを送ってもらうと、その日だけの機能が起動する。後は写真とメッセージを送ってもらうと、自動的に位置情報、写真、メッセージが蓄積されるの</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・WG メンバーと事務局で、市公式 LINE とグーグルマップの連携等について、地域創造課集落支援員に確認をする。そして試しにやってみる。</li></ul>
--	---	---

	<p>で、それをそのまま google マップに貼り付けて公開すれば見える化できる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・参加していない人も google マップを見ればたくさんピンが立ったマップを見られるので、参加した人がどこで何を感じて、写真とメッセージを送ったのかがわかる。</li><li>・この見える化により周りの人を巻き込んでいくことが実現できるかもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・メッセージを送るときに、我々が後で分類しやすいように、例えばハッシュタグのような工夫はできるか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・機能としてはない。我々が後で分類しやすいように、例えばメッセージの中に決められたキーワードをハッシュタグ的に入れてもらうことならできらるう。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まち歩きというと外側から見るというイメージであるが、その日は建物を開放して、内部が見られるとよいかもしれない。</li><li>・まちなかエリアは広いが、全て網羅的にやって1回で終わりということではなく、継続してやっていくことであれば、今回はエリアを絞ってもよいかもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」が何のためになるのかということが難しい。</li><li>・どのタイミングでテーマができて、テーマを引っ張る人はどういう人で、どこに着地するのが想定できていないといけない。</li><li>・「対話・つながり・実現の場」を何回かやって、具体的なチームを作り、WG も細分化されて、まちなかの高度化や活性化がまちなかに住む人にとって自分事になっていくことを目的とし、その中で新技術的なことが取り入れられて高度化していくことを狙うとかであれば向かう先はわかるが、とりあえず1回やってみましょう、で、次どうしようとなると、どこに向かっているかわからなくなるか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今までの WG の議論の中では、「対話・つながり・実現の場」を通し、例えば交通、福祉、学び、防災といった、まちづくりにおける課題にだんだんテ</li></ul>	
--	--	--

マが絞られていき、そのテーマを引っ張るような人たちが出てきて、どんどん関わる人が増えていくということを目指すという方向であった。

○WG メンバー

- ・であれば、新しいプレイヤーがどう入ってくるかが重要である。市と既存のプレイヤー、移住者と既住者、商店街の人と郊外の人などさまざま垣根を超えるようなプロジェクトが生まれていくことが目的と言われれば、なんでもありから取捨選択できる。
- ・例えば「対話・つながり・実現の場」を通して「昔の雰囲気が残っていていいよね」という話になっても、商売や耐震、消防法のことなどを考えると更新されていく流れには逆らえないのであれば、何のためにいいものを見つけたのだろうということになってしまう。
- ・官民連携の活動を起こしていこうということであれば、垣根を越えて新しいことが生まれるという目的や、WGとして何かしらまちなかに足りないと思っていることがあってのテーマ設定が必要だと思う。

○WG メンバー

- ・行政のお金の掛けどころを見極めるために「対話・つながり・実現の場」をやりたいのであれば、例えば市の防災担当者や交通担当者から課題を説明したうえで、まち歩きをしてテーマ出しをしてもらうように持って行くこともあると思う。

○WG メンバー

- ・どこまで説明するかという問題はある。「行政のために」となると楽しくなくなる。楽しいことをやっているのだけれど、積み重なって自分たちがコミットしたくなるストーリーというのを、我々は頭の片隅に置いておかなくてはならない。

○WG メンバー

- ・表向きは拡散フェーズだけれど、次のステップに行くときには集約させて、どういうテーマになっていくかという考えは我々で持っておいた方がよい。

○WG メンバー

- ・弥生ヶ丘高校 WG や伊那北駅周辺 WG から溢れてきた人が「この WG は何やっているんですか？」と聞いてきたときに、われわれ WG メンバーは、「たっくさんの人やものをつないで、新しい活動が生まれて、まち全体を楽しくするんです。」くらいの抽象的なことでも同じ温度感で答えられた方がよい。それについては、次回「対話・つながり・実現の場」

の前後に一旦議論して答えられるようにしておいたほうがすぐ次に進める気がする。

○WG メンバー

・この WG のミッションはややぼやけているけれど、私としては、まちづくりに積極的に関わる人を増やしていくことが誰から見ても異論のない目的であると考えます。

○WG メンバー

・「関わりしろ」がどこにあるかを見える化することに尽きるプロジェクトになってきていると思う。そのためには、これから相当一生懸命に情報発信をやっていかないとはいけません。

・そのエンジンが掛かるまでのところを、数回の「対話・つながり・実現の場」で行い、エンジンが掛かれば見える化の世界の中で関わる人たちが自由に活動していけるのが理想である。

・難しいけれど、見える化されたものを見て行政も政策決定をしたり、一般市民も面白そうな「関わりしろ」に関わっていける形をこの WG で作らなければいけないと思う。

○事務局

・行政サイドでいうと、道路改良や都市整備の根拠になったり、さきほどの見える化によって政策メニューに財源を充てていくなど、このまちづくり事業で明らかになった民意を根拠として事業化が進むということは目的の一つである。

○WG メンバー

・郊外型タイプの人とまちなかタイプの方は全然タイプが違うのだろうけれど、これが混ざったら面白いのではないかと。まちなかを経由しなくても生きていけるという話が以前あったが、その経由が少しでもあると賑わいや新たな企画につながるかもしれない。そのためには何があればよいかを狙って、例えばこの道路の付け方ダメだよという話をするとうまく政策メニューや予算化にもつながると思う。

○WG メンバー

・以前から相当多くの方が移住してきているにも関わらず、行政には商工会議所や商店街など昔からいる人の意見を吸い上げる動線しかないと思っている。他にも意見をもった人材がいるはずなのに既存のやり方だと活かしきれないところを、このまちづくり事業で吸い上げたいという期待もあるかもしれない。

<p>まち歩き後の対話</p> <p>まち歩きの案内について</p>	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」では、参加者は楽しくやっているのだけれど、我々は一生懸命どこがポイントなのかを考え、参加者がどうやってまちを楽しむのかを観察することになるのではないかと。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今日の話で1番面白いのは、市の公式 LINE という既存のインフラを活用して楽しむところである。まちなかエリア WG の「対話・つながり・実現の場」の振り返りで既存のインフラに対して、「こんな使い方をすればもっと人が関われる」など、仕組みの見直しに繋げることができるのは、他の WG にはない視点かもしれない。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回 LINE で作成するマップは、行政が作るマップや限られたメンバーで作るマップよりずっとリアルな熱のこもったマップができる。参加者以外の人にも広く見てもらうマップを作るというテーマを持っておくと、さらに広がっていくための取組ということが認識できる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今回活用する市公式 LINE は年代でソートできるか。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・LINE に登録している名前は表示されるかもしれないが、年代についてはルールとしてメッセージに年代を入れてもらうなどすれば識別できる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・20年サイクルくらいで古いものがまた新しく見えることもある。ちょっと前だとダサいけれど一つ年代が上がるとまた新しく見えるとか、そのまちバージョンが見えたりすると面白い。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・後半は、以前作成していただいたワークショップ案でよいのではないかと。想定するワークショップ所要時間から逆算して、まち歩きのテーマ・コース設定をすればよい。</li></ul> <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まち歩き前に、後半の対話のテーマを投げかけておければスムーズになる。</li></ul> <p>○WG メンバー</p>	<p>・次回 WG までに、どんな視点でまち歩きをする</p>
------------------------------------	--	---------------------------------

	<p>・まち歩き案内人はどのような人が候補となるだろうか。</p> <p>○WGメンバー</p> <p>・案内人のキャラが出すぎてもよくない。</p> <p>○WGメンバー</p> <p>・当日すべてを説明しなくても、「こういうことが知れるのはココ」、「こういうことを体験したければココ」といったいくつかコースを作っておいて、まち歩きの参考にしてもらうのもよい。</p> <p>○事務局</p> <p>・市で区ごとに作っている「地域の教科書」を参考にすることもよいかもしれない。各区を挙げて魅力発信のために作ったものである。</p> <p>○WGメンバー</p> <p>・例えば不動産系の方が案内すると、まちの再生やリノベーション視点の楽しいまち歩きになると思う。どの視点を持つ人が案内するかで全然違うまち歩きになる可能性があるので、そこをどう設計するかは重要である。</p> <p>&lt;まち歩きの案内人候補として名前が挙がった方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まちなかに長くいてまちづくりに取り組んできた方</li><li>・移住してきて新たにお店を始めた方</li><li>・移住者と既住者を仲介する方、紹介する方</li><li>・1月の「対話・つながり・実現の場」に参加していた建築家の方</li><li>・造り酒屋さん</li><li>・建築、福祉、保養などに見識があり、どんな質問にでも答えられる方</li><li>・まちなかエリア高度化 WG</li><li>・文化財系の市職員</li></ul>	<p>か、その視点であれば誰が案内人として最適か候補を考えてスラックに上げる。</p>
--	--	---

■今後のスケジュール

- ・ 5月15日(木) 午後6時～ 伊那市役所3階305会議室(オンライン併用)

WG

- ・ 6月15日(日) 午後時刻未定 伊那市産業と若者が息づく拠点施設 allla 1階多目的室、2階会議室  
まちなかエリア高度化 WG「対話・つながり・実現の場」